

日本 ハンザキ研 研究所ニュース 2009(9) : 通巻 No. 45



発行 2009年9月30日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel/Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

URL: http://www.hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

ハンザキ研をめぐるスター⑩

ハンザキ (オオサンショウウオ)

ハンザキが旨いかどうか、知りません。でも、9月はハンザキの繁殖期であり、動物の生態を観察する上での重要な時期ですから、登場してもらうことにしました。当地、生野町だけに限りませんが、中国山地ではハンザキを重要な蛋白源として食料や薬用などとして利用していた所が多いようです。ハンザキ研の公共交通の便は、火と金曜日の2回の「あこバス」が午前午後各一便走ってくれます。前日の予約さえ忘れなければ便利で、週に一回の食料調達に利用しています。乗っているおじいさん・おばあさんとは顔なじみになりました。一人のおばあさんが、産後の肥立ちにとハンザキを食べさせられていた話をしてくれました。ある時、夫がハンザキを捌いている所を見ていたら、腹の中からへビが出てきたので、以後は絶対に食べないことにしたそうです。



死体(黄色)を振り
回す内山主(黒)

水面に円が描かれて
いる

食の魯山人が調理法や食感を書いています。持参したのは私の大学の先輩のようです。書かれた時期と調理した時期がはっきりしませんが、昭和27年には特別天然記念物に指定されましたから、それ以後であれば文化財保護法違反ということになります。どこに住んでいたのかも知りませんが、岐阜以西に生息している本種を手土産に持参した先輩は、どこで手に入れたのでしょうか？ どなたかこれらの謎を検証してみてください。

しかし、何でも食べると言われる中国ではハンザキの“すがた煮”や“手羽先？”などの料理があるそうです。実際に写真を見せられた時はさすがにギョッとしました。でも考えてみれば食文化の相違ということなのでしょう。



写真1 今年もハンザキの夜間観察会



写真2 モニターにヤマセミ登場

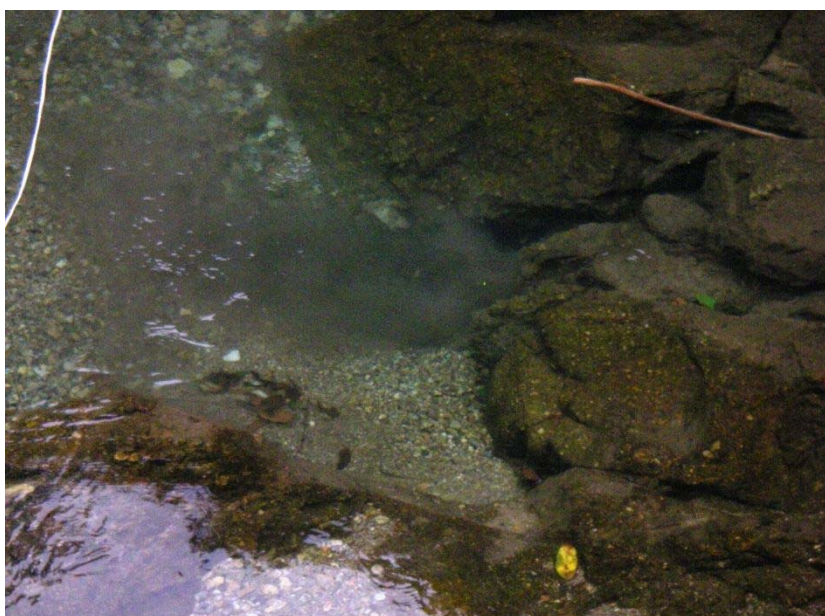


写真3 内山主のクリーニングの土煙



写真4 ネットinした3歳のメスジカ



写真5 銀谷祭りでハンザキに馬乗り



写真6 学生ボランティアの奮闘

ハンザキの繁殖期における 24 時間監視カメラ録画

昨年、アンコ淵における黒主のバトルの撮影と録画ができた。今年は主のパトロール行動や、メスの入巢、スニーカー・オス群の突入と終了後の深呼吸など一連の生態を録画したいと能力アップしたパソコンが準備できた。さてその結果は？

- 9月3日 17:00 録画開始
- : 19 1 個体 (A: 内山主) 巢に入ると同時に土煙が出る。クリーニング開始
 - 18:00 淵から小個体 (B) 出る (右首に目立つ黒斑 2 あり)
 - : 45 A: 巢より出る
 - 19:05 巢岩上右から A? 左へ去る
同個体? 岩の下流から左裾を通過して巢へ入ると土煙数回出る
 - : 20 B: 巢に入りかけてやめて去る
 - : 25 大粒の雨で見えなくなる
 - : 40 A: 巢から出て岩上で一呼吸して巢へ戻る
 - : 43 土煙数回出る
 - : 50 再び雨が強くなり観察不能
 - 21:00 小雨となるが濁流となり観察不能
- 4日 03:00 雨はやんで、浅瀬の底は見えるがアンコ淵の底は見えない
- 17:00 B: 淵より? 橋下の穴へ
 - : 13 A: 巢へ入る
 - : 30 A: 巢より出て岩上へ出ようとして流されながら一呼吸
 - 19:00 B: 淵より出てきて橋の下へ消える
 - 19:50 第三の個体出現
 - 20:05 A: 巢穴の入り口に頭を出し 5 分後に下流の闇へ
 - : 17 A: 巢穴に入る
- 5日 07:22 A: 巢穴から出て、岩上で一呼吸し穴に戻る
- 6日 19:20 A?: 全半身出し中、岩上で一呼吸し左下流に消える
- : 25 淵の上流側から黒主登場し、スムーズに穴へ入る
 - : 32 A?: 穴に入るもバトルなし?
 - : 35 A?: 穴より出る
 - 20:08 黒主出てきて岩上で一呼吸し穴へ
- 7日 17:45 A: 穴から出て右岸ゴミ下へ
- 18:45 黒主: 穴から出て下流へ
 - 20:20 A: 穴へ入る
- 8日 04:27 A: 穴より右岩上へ消える
- : 45 A: 穴に入る

- 07 : 05 A : 穴より出て岩上一呼吸しゴミ下へ
 : 15 A : 穴に入る
 : 30 1 個体、半身を穴に入れている
 上流より黒主現れて淵に下りようとしてあわてて岩上に戻り下流へ
- 9 日 07 : 45 黒主右岩上から淵へ入りそのまま下流へ、また戻り淵へ入るがゴミ下へ
 10 : 30 NHK クルー、カメラを穴へ、1 個体写る
 14 : 18 多数個体が出たり入ったり、産卵?
 18 : 15 A : 穴に入る
 : 28 A : 出てきて岩上で一呼吸し岩を一回りして穴へ
 : 50 穴から 1 個体出る
- 19 : 20 A : 淵から穴へ
 : 26 1 個体、岩の左から穴へ入りかけるが上流へ去る
 : 32 同じ個体が淵へ入り下流へ去る
 : 40 淵から岩上へ 1 個体出る
- 20 : 15 派手な柄の個体が淵へ穴を窺うもいきなり飛び上がって右にさる
- 11 日 18 : 00 2 個体、穴より出る、内 1 は黒主で下流へ去る
 20 : 55 黒主、上流から現れる
 2 個体、穴へ入る
- 23 : 19 1 個体穴から出て一呼吸し穴へ
 : 30 A : 穴から出て下流へ
 1 個体右から現れて穴へ
 : 55 1 個体穴へ入る
- 15 日 06 : 00 黒主が岩左裾に張り付いている
 : 25 黒主、後ずさりしゴミ下へ
 19 : 50 黒主、岩左裾に張り付き、淵にもう 1 個体あり
 20 : 00 大メス、淵から出て上流へ去る
 20 : 45 A : 穴から出て岩上で一呼吸し、下流へ消える
- 16 日 07 : 35 カワセミの羽づくろい、何回もダイブを繰り返した
 19 : 15 黒主、淵を通過
 : 45 淵でイシガメ 4~5 個体追尾行動中
- 17 日 18 : 45 黒主、淵左で 22 時まで動かず
- 18 日 19 : 40 黒主、淵へ
 : 50 黒主、あわてて下流の闇へ消える
- 20 日 18 : 40 A : 穴より出て岩上一呼吸し後ずさりして淵へ

記録の時間帯を見て分かるように、これらのメモは食事時のものである。モニターを見ていない時にどのようなショウが演じられたのか楽しみだ。

こんな具合に 9 月 3 日から 28 日まで録画した。しかし、これを全て見直して編集するのは大変な作業だ。この間には、録画が 24 時間くらいでストップしてしまうことや強烈な電磁波が出ていてラジオに強い雑音が入って聞くことが出来ないこともわかった。3 時間弱もの長い停電で止まっていたこともある。結局の所は、今シーズンの繁殖パーティでは、主役が内山主（個体 A で、穴のクリーニングをした写真家の内山りゅうさんが入れたオス）となり、昨年までのスター黒主はチャレンジャーとして登場したが“主”には復帰できなかった。派手な出入りやバトルは確認できなかったが、内山主の行動から 9 日に産卵受精がおこなわれたものの、その後も複数回の産卵が行われたものと思える出入りがあった。

8 月 1 日と 9 日、9 月 3 日と 3 回もの大水が出て、アンコ淵の巣穴も埋まってしまい、今年も駄目かと思ったがなんとか繁殖は出来たようだ。これも、内山さんや NHK クルーのクリーニング活動と内山主の懸命なクリーニング行動の成果だ。それにしても、主とは強いものだと思う。あの昨年までの 3 年間のヒーローの黒主が、チャレンジャーになった途端にビクビクとしており弱腰になってしまった。穴にも何回かは入ったが“主”に復帰できなかった。それも 9 月末まで未練たらたらに穴を窺っていたのはどういうことなのだろうか？ こんな風にデン・マスターは変わっていくということなのかもしれないが、多くの方にファンになっていただいた黒主の復活を期待したいものだ。

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

今年のハンザキの繁殖期も終わった。昨年や一昨年のようにオス同士の派手なバトルは見られなかったが、今回もまた新しい発見があった。死体にまでアタックしていくデン・マスターの行動である。9 月 29 日の朝食中にモニターに写った光景は昨年の再現かと思ったが、そうではなかった。かろうじて降雨の中、濁水を通して撮影したのが表紙の写真である。バトルと言うよりも一方的に振り回されている感じで体がダランとしていた。そして、内山主はポイツとほうり捨てたのであった。殺された！殺しの現場だ！と興奮したが拾い上げて解剖した結果はすでに死体であったのだということが分かった。腹腔内に大量の出血があり心臓も真っ白になっていた。外傷は主に咬みつかれてできた表皮のわずかな白い傷跡と胸部の打撲傷跡だけだった。それにしても死体にまでアタックするとは驚きだ。生死の判別が出来ないのだろうか？

京大大学院生の田口勇輝さんが、今月 3 人目のオオサンショウウオ博士になった。田口さんは当ニュース No.3 に寄稿してくれたように 3 年前の春に 7 夜連続の徹夜調査を実施している。そのときには 35 個体を記録して、皆勤賞が 1 個体、17 個体が 1 回しか出現しないという結果だった。今回は 2 個体が皆勤であったが、その内の 1 個体は前回の皆勤個体という結果には大笑いした。ハンザキの世界にも勤勉なやつとそうでないものがあるのだ。今回は多数の出現で 50 数個体を記録し、前回同様に半数が 1 又は 2 回しか出なかったと言う成長の意欲を見せない？個体が多く、のんびり生きていく？生き物なのかとも思う。

ハンザキ研日誌

2009年9月

- 1日 ・カニ籠とモンドリ調査のチェック
 ・内山りゅう氏とNHK早川ディレクター他2名取材に~15日まで
- 3日 ・24時間監視カメラ録画開始直後に、内山主が穴に入りクリーニングの土煙出る
 ・夜、ゲリラ豪雨で急増水、全長測定器、ハンザキ・クリーナー流失
- 5日 カニ籠に94㌔の大型メス入る
- 6日 ・夜、内山主が穴より出た2分後、黒主巣穴に入る。黒主の復活？
- 7日 ・校庭へのシカ侵入防止ネットにメスジカが掛かる、猟友会員が処置する
 ・単価1.2万円のLEDライト5球、あんこ淵にセット
- 8日 夜、黒主が巣穴を窺うもビクビクしている、チャレンジャーの弱みか？
- 9日 ・NHKクルー、アンコ淵で潜水撮影、巣穴のクリーニング実施
 ・アンコ淵の巣穴に多数の個体が出入りするも、集中していない
 ・アンコ淵の左岸の水際から8㌔の陸上で、無傷のメス死体
- 11日 カモガワ・ハンザキ1個体腹部にガス、横向きに浮く
- 12日 但馬ふるさとづくり大学（但馬検定）でハンザキの話
- 15日 ・ハンザキの月例健康診断（田口研究員他）
 ・黒主、アンコ淵の穴岩に張り付いて様子を見ている？
 ・田口7夜連続調査2開始（~22日まで）大阪府立大学生と
 ・ハンザキ流出卵塊収容（成体がいたのでメスの排出卵か？）
- 17日 ・榎谷建設、ハンザキ保護センターのポンプ・ピットの排砂完了
- 18日 学生ボランティア5名、河川ステーションで巣穴の土砂出しとイグサ植え込み
- 19日 ・事務局会議7名出席
 ・ハンザキの夜間観察会6組21名参加、2個体チェック、3日に流失したハンザキ・クリーナーを7㌔下流で回収
- 21日 見学者6組22名
- 22日 ・見学者6組34名
 ・京都大学院生・田口さん7夜調査終了 58個体チェック
- 23日 黒主連夜出現するも、弱腰で穴へ入らず（~27日まで）
- 27日 生野町最大の祭り“銀谷祭り”に初出展・出店
- 28日 ・会誌あんこう3刊行、ハンザキ研ニュース44などと発送
 ・アンコ淵の連続録画終了
- 29日 ・アンコ淵で内山主が、死体とバトル（表紙写真参照）
 ・キイロスズメバチに頭頂を刺される、伐採草木ビオトープにて外来植物の抜き取り作業中に
- 30日 兵庫県豊岡土木事務所2名と環総テクノス3名来所、出石川の追跡調査打合わせ